

1972年7月25日発行

共産主義者同盟 (RG)

第5号 100円 発行人 野村 忠

赤報

スターリン主義打倒、反スタマルクス主義止揚、革命的マルクス・レーニン主義復権の旗を更に高く掲げ、国際非合法党を建設せよ!

革命戦争の旗をおろした八木君の似非レーニン主義について

「革命戦争の大勝利への試練」と題して「序章 八号」の紙上、八木君は、連合赤軍への「死」の宣言をした。赤軍派の「再生」について述べている。

この論文は、赤軍派の同盟員及び支持者、更にいわゆる蜂起戦争派の諸派、諸個人に注目をあびている。

その理由は、塩見君、上野君はじめ赤軍派の主要な指導者達が、統率戦と階級戦を完全に切り離し、一切の責任を連合赤軍の指導者達のものにしており、誰の目にも赤軍派議長及び指導者

第一章 連合赤軍の闘争に対する

八木君の態度

「蘇井沢の統率戦」(この事件)に対する態度は、塩見君(赤報N 4)参照)は、メダルの裏表として、O3参照)や上野君(赤報N 04参照)に比べて、はるかに事態の本質に迫っている。

だが、彼の主要な誤りは、連合赤軍の政治的敗北、「流派の死」としてしかおぼえていない点にある。すなわち、「流派の死」としておぼえておいて、赤軍派内部の党内闘争として問題をたてない点にある。

即ち、「この事件」(鹽清)を直接に規定しているのは……とりわけ、連合赤軍の指導の幹部の思想や分析能力や判断や個性や指導力、指導方法の問題である。極めて困難な、極めて厳しい状況の下で、個々の主観的要素に決定的な影響を及ぼしている。その意味では、もたらされた事実の、プロレタリア人民に対する直接の責任批判と糾弾の対象は直接的な責任者

「統一赤軍結成万歳、すべて武装グループは統一赤軍に結集し、統一赤軍に呼応して闘え」とこれが「革命党」(革命軍と革命戦争の大道へ)(序章六号)の副題である。

この論文の眼目は、副題の理論的証明こそあり、著者は、自分の組織名を論文の末尾に「赤軍兵士」と署名している。そして、そのような立場と眼目から主張がなされている。

ところが、現在、彼は、このような態度は、「赤軍派」に対する「妥協主義」「折衷主義」であったといっており、「妥協主義」「折衷主義」からの脱出は、マルクス・レーニン主義の原則的立場に立

《本号目次》

- ◆ 革命戦争の旗をおろした八木君の似非レーニン主義について 1~3面
- ◆ RGを清算し銃撃戦に敵対するのは誰か 4~5面
- ◆ 国際非合法党建設の前進のために(1)スターリンの「資本主義批判」の批判 6~7面
- ◆ プルドン主義に転落したうえのくん(下) 8面
- ◆ 「三種の軍隊」批判 8面

「統一赤軍結成万歳、すべて武装グループは統一赤軍に結集し、統一赤軍に呼応して闘え」とこれが「革命党」(革命軍と革命戦争の大道へ)(序章六号)の副題である。

この論文の眼目は、副題の理論的証明こそあり、著者は、自分の組織名を論文の末尾に「赤軍兵士」と署名している。そして、そのような立場と眼目から主張がなされている。

ところが、現在、彼は、このような態度は、「赤軍派」に対する「妥協主義」「折衷主義」であったといっており、「妥協主義」「折衷主義」からの脱出は、マルクス・レーニン主義の原則的立場に立

第二章 「赤軍派」に対する「妥協主義」「折衷主義」と

八木君の資本主義批判

「統一赤軍結成万歳、すべて武装グループは統一赤軍に結集し、統一赤軍に呼応して闘え」とこれが「革命党」(革命軍と革命戦争の大道へ)(序章六号)の副題である。

この論文の眼目は、副題の理論的証明こそあり、著者は、自分の組織名を論文の末尾に「赤軍兵士」と署名している。そして、そのような立場と眼目から主張がなされている。

ところが、現在、彼は、このような態度は、「赤軍派」に対する「妥協主義」「折衷主義」であったといっており、「妥協主義」「折衷主義」からの脱出は、マルクス・レーニン主義の原則的立場に立

「統一赤軍結成万歳、すべて武装グループは統一赤軍に結集し、統一赤軍に呼応して闘え」とこれが「革命党」(革命軍と革命戦争の大道へ)(序章六号)の副題である。

この論文の眼目は、副題の理論的証明こそあり、著者は、自分の組織名を論文の末尾に「赤軍兵士」と署名している。そして、そのような立場と眼目から主張がなされている。

ところが、現在、彼は、このような態度は、「赤軍派」に対する「妥協主義」「折衷主義」であったといっており、「妥協主義」「折衷主義」からの脱出は、マルクス・レーニン主義の原則的立場に立

国際非合法党建設の前進のために(1)

スターリンの「資本主義批判」の批判

はじめに

第二次RGから脱走し、明確な党の組織的実践が直向した理論的諸問題を解決すること、われわれの理論的実践が「同盟内外」の巨きな波紋を呼び起している」と自ら自讃しているが、まさにその「波紋」とは、日共六全協の与え

た「波紋」と同じであることに気付いていない。かくして烽火一派の間では、自らの組織的実践を美化するための「御用理論」がはびこるようになってきた。その萌芽は既に「同盟12・18路線の意義と限界」の中に既に表われている。

「同盟12・18路線の意義と限界」による「統一」と系統的な教育活動として確立した。

第二次RGが、昨年の武装闘争を闘い抜くには組織問題における飛躍が問われ、われわれはそれを共産同盟(RG)の結成として勝ちとらせたこと、それに対し、烽火一派の作業は第二次RGの到達した組織的地平からも後退し、RGを清算し、党を統一戦線党(ヘゲモニー)に解消したと、このことが今になって、彼らの「党派性」として語られるに至った。

われわれは、彼らの脱走行為が荒川(ヘゲモニー)論の後退であり、

また、党全体の軍事的能力の強化、体系的非合法党の建設をもつて我々は健全な形で、軍事組織を組織できない(同盟)の結論を「我々は、軽井沢銃撃戦を悲痛の念をもってうけとめ、彼らの二度目の、前段階階級ともいえる敗北を教訓化しなければならぬ(同盟)をみるならば、彼らの「教訓」も、「非合法党をいかに組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞

に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。

「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。

「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。

「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。

「健全な形で軍事を組織する」だつて?その通り、一切は細胞に組織するか」という同義反復も内容が知れようというものである。

① スターリンの資本主義に対する基本思想

義に対する基本思想

スターリンの現行の「経済学教科書」(改訂第四版)・ソ連邦科学院経済学研究所著において、資本主義制度の基礎として次の様にまとめられている。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

「資本主義制度の基礎となつてゐるものは、生産手段の資本主義的所有である。生産手段の資本主義的所有は賃金労働者を搾取するに利用される。勤労によらぬ資本家の私的所有である(同書P一五)。

② 資本家に対する労働者の地位を貧富の差に解消

労働者の地位を貧富の差に解消

スターリンの資本主義批判は、彼の初期の論文「無敵の死まで変えられる」とはなかつた

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

スターリンの死後も、ソ連共産党をはじめとする諸国の共産党によってひきつがれている。

革命戦争とその組織問題、目をつぶつていこうとするところである。そして他方では「プロレタリア」の切迫した根拠を「密着遊撃戦」論と「首尾一徹」したところを「ロレン」のまわらないことを言う前に、日共御用学者監修の小学一年生の国語の教科書でも読んでおくことだ。……(一)

とを否定した戦術でしかない。彼ら、非合法活動に対する、やれ、非合法活動の召還とか、やれ、非合法活動の切迫した根拠を「密着遊撃戦」論と「首尾一徹」したところを「ロレン」のまわらないことを言う前に、日共御用学者監修の小学一年生の国語の教科書でも読んでおくことだ。……(一)

君のものはならない。それは資本家にだけ関係あることで、彼らのものになる。諸君が受けとるべきものは諸君の毎日の賃金だけであり、これはもちろん諸君がつましく暮せばの話だが、おそく諸君の最低の必要はみだす。簡単に言えば、資本家はプロレタリアの労働者を買ひ、彼らはプロレタリアを雇ひ、それだから、資本家はプロレタリアの労働者の成果を奪うのである。それだから、プロレタリアが資本家を搾取するのだ。

スターリンは、第一に、資本の直接的生産過程の内的作用を分析していない。第二に、所有と労働との分離を資本制の生産の取得法則として説明していない。第三に、資本制の生産様式は、商品を生産するばかりでなく、資本家、労働者、即ち資本関係をより拡大して再生産することによって、資本制の生産様式を搾取の仕組み、搾取制度に解消し、その結果搾取に反対する闘争を、階級闘争の中心課題としてとらえたのはカウツキーであった。この思想はエールフルト綱領の中で述べられている。スターリンの資本主義批判もカウツキーのそれと同様である。

資本主義の批判を搾取および再生産の過程として、階級の経済的不平等としてしか行えない人々は、階級闘争に対する正しい見解を首尾一貫して持つことが出来ない。カウツキーは生涯プロレタリア独裁に対する正しい把握を成し得なかつたし、スターリンは後にもふたつ、社会主義、共産主義に対する正しい見解を持つてなかつた。彼らはプロレタリア思想を根本的に批判し、それに屈服したのである。ロシア革命の遺産をブルジョアに売り渡したのにはトウスキーやパーリソンやジノヴィエフではなく、スターリンであったこと、このことは、スターリンの終生変容の事象となつた。資本主義批判にその原因の一つがあることははっきりさせなければならぬ。

資本主義社会における労働者のブルジョアへの経済的隷属が、政

(次頁へつづく)

(前頁よりつづ) 治的・社会的基礎の根底にある。その結果の一つとして採取がもたらされてきた。ここから階級闘争の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。

④ 階級闘争に対するマルクス主義の原則の復権

われわれは、資本制的生産様式を採取の原則として分析すること。マルクス主義の原則の復権。われわれは、資本制的生産様式を採取の原則として分析すること。マルクス主義の原則の復権。

⑤ 資本主義の自動崩壊論

スターリンは資本主義の批判を、資本主義の生産様式がもたらす諸結果の一つとして採取することに注意を払っている。スターリンは資本主義の批判を、資本主義の生産様式がもたらす諸結果の一つとして採取することに注意を払っている。

われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。

⑥ 国家に対する民主主義的態度

「以上は全て資本主義的生産の一般的性格を明らかにするものである。第一に、資本主義的生産が単一の、組織的なものである。第二に、資本主義的生産が、例外的な個々の資本家の個人企業に細分化されている。第三に、この細分化された生産の目的は、売上の最大化である。」

「われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

⑦ 国家が資本主義を擁護する

「国家は、資本主義を擁護するために、労働者階級を搾取する。国家は、資本主義を擁護するために、労働者階級を搾取する。」

「われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

⑧ 共産主義の目的

「共産主義の目的は、労働者階級の解放に置かれた。共産主義の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

「われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

(c) 反革命集団の闘争について

「反革命集団は、労働者階級を搾取する。反革命集団は、労働者階級を搾取する。」

「われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

(6) むすび

「以上で赤報前号に引き続き、われわれの目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

「われわれは、既に資本の直接的生産過程を分析し、そこにおける資本家と労働者との関係が労働者の解放の目的を労働者階級の解放に置かれた。この階級闘争の目的は、労働者階級の解放に置かれた。」

プルードン主義に転落した うえのくんの下

うえの版「三種の軍隊」批判

(4) うえのくんの

「三種の軍隊」批判

(a) はじめに

我々は亦前号において、「統一戦線と階級闘争」をめぐって、統一戦線の崩壊を不可避の運命として、かつ、統一戦線の崩壊の代償として、われわれは統一戦線を革命的な階級闘争へと変換することを主張し、その必要を論じてきた。その結果として、統一戦線の崩壊は、統一戦線の崩壊を必然化した。その結果として、統一戦線の崩壊は、統一戦線の崩壊を必然化した。その結果として、統一戦線の崩壊は、統一戦線の崩壊を必然化した。

(b) ポー・ゲエ

版「三種の軍隊」

の反動性

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

とくに、最も重要な、国際派闘争と国際統一戦線の崩壊、第一級の対象であると考えている。我々は、その崩壊を、世界軍の崩壊、人民の崩壊、国際合法化建設をめぐっての国際派闘争と国際統一戦線の崩壊を意味している。

(5) 日本階級闘争の現実

に無理解のうえのくんに

(a) 帝国主義

の階級闘争

における前衛

の任務

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

我々は、以上二点を念頭に、うえの版「三種の軍隊」を批判する。この批判は、うえの版「三種の軍隊」の反動性を明らかにし、その反動性を批判する。

心情的に共感し、それについての評論を書くことはできても、それを自らの実践の問題として、革命戦争として闘わなければならない。国際派闘争の現局面におけるプロレタリア国際主義の諸原則の復活とその実践として、とりわけ社会帝国主義と労働組合主義が支配的となり、日本帝国主義下の階級闘争における前衛の任務の問題として問題を立てる態度は生まれるはずはない。

(b) 共産主義と労働運動の結合について

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

さて、それから、うえのくんに「日本人民は別に抵抗しなくても生きて行ける」と言っていることについて、日本の労働階級は少なくとも抵抗することによって生きて来たことは明らかである。

えのくんの言うように、現実にはプロレタリアが「抵抗しなくても生きて行ける」かの如くに見えるのは、実はプロレタリアが「労働階級の崩壊と私有財産制度の崩壊」というスローガンを掲げた非合法党と結合してたたかいたためである。

七頁七段(つづく)

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。

えのくんに、このように階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。階級闘争の現局面を論じている。